

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG 通信

2024 年 vol. 2(2024.7)

---

### 第 77 回東北学生陸上競技対校選手権大会

- ・根本大(M1)が男子十種競技において 6768 点の大会新記録で優勝
- ・渡邊(2)が男子 800m、男子 1500m で 2 冠
- ・阿部(4)が男子 400mH で 51.64 の好記録で優勝、B 標準突破
- ・白鳥(1)が女子 200m で優勝及び女子 100m で第 2 位
- ・平谷(3)が女子ハンマー投で優勝

### 第 85 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 兼 第 37 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 (北海道岩見沢市 東山公園陸上競技場)

- ・男子総合 2 位(通算 49 勝 32 敗 1 分)、女子総合 2 位(通算 6 勝 23 敗)

- 
- 第 77 回東北学生陸上競技対校選手権大会 (ND ソフトスタジアム山形) 2~13 ページ
  - 第 85 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 兼 第 37 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 14~20 ページ
  - 全国七大学対校陸上競技大会への抱負 21~23 ページ
  - 自己ベスト更新者 23~24 ページ
  - 今後の予定 24 ページ
  - 編集後記 24 ページ
-

小暑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。今号では、東北インカレ、北海道大学対東北大学定期戦の結果と七大戦に向けた抱負をお伝えします。

## ◎第 77 回東北学生陸上競技対校選手権大会

## ND ソフトスタジアム山形

5/31(金)～6/12(日)の3日間にわたり ND ソフトスタジアム山形にて第 77 回東北学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。東北大学は男子総合 2 位、女子総合 5 位と健闘しました。各種目においても目覚ましい活躍をした選手が多数となっています。対校得点の結果、入賞者一覧と出場選手の観戦記を紹介します。

### 総合結果

結果	得点	順位		得点	順位
男子総合	132	2 位	女子総合	48	5 位
男子トラック	78	2 位	女子トラック	26	6 位
男子フィールド	38	3 位	女子フィールド	22	4 位

### 入賞者一覧

男子400m	4位	菅野涼太(3)	男子三段跳	5位	大谷航平(M1)
	8位	佐藤千仁(M2)	男子砲丸投	6位	金岡有途(3)
男子800m	1位	渡邊優典(2)		7位	大泉宥太(2)
	4位	大塚光陽(4)	男子円盤投	7位	金岡有途(3)
	5位	千葉琢巳(6)		8位	小田島創太(1)
男子1500m	1位	渡邊優典(2)	男子ハンマー投	7位	金岡有途(3)
	6位	上原佑太(M1)	男子やり投	5位	増田併介(2)
男子10000m	2位	向田祐翔(4)		7位	川内蒼馬(4)
	3位	千葉航太(3)	男子十種競技	1位	根本大輝(M1)
	7位	工藤大介(M2)		4位	小出寿啓(5)
男子400mH	1位	阿部竜胆(3)		6位	鍵山弘樹(1)
	8位	岡田幹太(4)	女子100m	2位	白鳥名花(1)
男子3000mSC	3位	杉山大輔(3)	女子200m	1位	白鳥名花(1)
	7位	小林由輝(4)	女子400m	6位	加賀谷美結(3)
男子10000mW	7位	田中伊織(3)	女子800m	8位	喜多和奏(2)
	8位	山中遼平(2)	女子4×100mR	5位	白鳥-加賀谷-原田-古閑
男子4×100mR	7位	藤井-室田-西尾-齋藤晃	女子4×400mR	6位	加賀谷-喜多-建部-原田
男子4×400mR	2位	菅野-阿部-千葉-佐藤	女子走高跳	4位	原田萌々子(4)
男子走高跳	8位	嶋崎雄飛(M1)	女子砲丸投	4位	平谷めるも(3)
男子棒高跳	3位	島村惟葵(3)	女子円盤投	5位	五嶋理子(1)
	5位	吉田悠斗(4)	女子ハンマー投	1位	平谷めるも(3)
男子走幅跳	5位	早藤海音(1)			
	6位	細島慎友(M2)			

## ●選手報告

### ☆トラック

#### 男子 100m 予選

1組 6着 元木盛太(4) 11.42(-0.4)

スタートはいつも通りの良さを出せたが、二次加速以降の動きがただだ鈍かった。調子を持ってこられず、力及ばなかった。

3組 5着 齋藤晃汰(4) 11.11(+0.2)

スタートで出遅れるも、中盤は落ち着いて自分の走りに徹する。5着でフィニッシュし、タイムで拾われ準決勝へ。

4組 3着 藤井大陸(M2) 11.26(+0.1)

雨が降る中、冷静にスタートを切るが中盤から先頭と離され、3着でフィニッシュ。



#### 男子 100m 準決勝

1組 6着 齋藤晃汰(4) 11.00(+1.4)

予選と同じくスタートで出遅れる。中盤にスピードに乗るが力及ばず6着でフィニッシュ。

2組 7着 藤井大陸(M2) 11.19(+1.7)

スタートで体が浮き、低く出られなかった。その影響で加速が上手くいかず周りとの差を付けられる。7着でフィニッシュ。

#### 女子 100m 予選

1組 1着 白鳥名花(1) 12.67(-0.3)

大学初レースだったので緊張したが、着順で次のラウンドに進むことができてよかった。

#### 女子 100m 決勝

2位 白鳥名花(1) 12.28(+0.5)

まさか表彰台に乗れるとは思っていなかったの、嬉しかった。ただレース自体としては苦手としているスタートの感触はよかったものの、スプリント力が足りずそのままおいていかれてしまい課題が残るものだった。

#### 男子 200m 予選

2組 4着 神近凜太郎(2) 22.81(+1.8)

前半しっかりスピードに乗ることができたが、カーブを抜けるところで足がもつれてしまい、後半伸びなかった。

4組 2着 西尾陸大(4) 21.66(+1.0)

過去1番のコーナーワークで前半を通過。ホームストレートでは冬場意識してきた効率の良い動きでスピードを維持し、4年前の自己ベストを0.3秒更新。このパフォーマンスで軽度の左ハムの筋膜炎を起こし、準決及びマイルの出場を断念。非常に無念。5組 2着 室田竜磨(2) 21.97(+0.8) 準決勝のために温存しながら走ることを意識した。スムーズにカーブを抜け、直線はリラックスして走ることができた。

#### 男子 200m 準決勝

3組 7着 神近凜太郎(2) 23.10(+2.0)

3日間の疲労の蓄積によって走りのキレが出なかった。風が良かっただけに万全のレースができなかったのが悔しい。

DNS 室田竜磨(2)

西尾陸大(4)

#### 女子 200m 予選

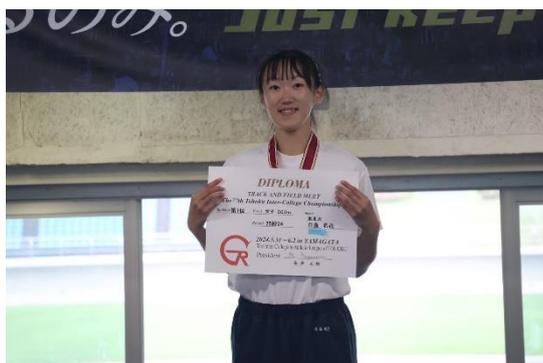
1組 1着 白鳥名花(1) 25.37(+1.7)

一番外側のレーンだったので、最初の100はしっかり加速して走った。100の決勝後だったこともあり、疲労で走りがばらついてしまった。

### 女子 200m 決勝

1位 白鳥名花(1) 25.24(-0.4)

優勝できたことは率直に嬉しかった。前半は他大においていかれたが、最後まで粘れたのが良かったと思う。タイムとしてはベストからは遠いので、改善していければと思う。



女子 200m 優勝、100m2 位の白鳥(1)

### 男子 400m 予選

1組 3着 菅野涼太(3) 49.62

決勝進出条件が1+4の中、組3番手がかつ、資格記録も離れていたためタイムで決勝進出を狙う。雨の中のレースとなり、前半は記録の速い選手を見ながらレースを進め、300をトップで通過。最後の直線で前述の2人に抜かれたが3着で決勝進出を決めた。

3組 7着 神近凜太郎(2) 51.96

前半で様子見してしまいスピードに乗り切れなかった。かなり低調なパフォーマンスになってしまった。

4組 1着 佐藤千仁(M2) 48.73

予選から全力のレースを行いました。前半を力みなく22.8で通過しましたが、切り替えが甘く、気づいたら35秒付近で300m地点に到達しました。ラスト100mも今一つパワーに欠ける

走りでゴール。



### 男子 400m 決勝

4位 菅野涼太(3) 49.14

予選の疲労も少なく、雨も止んでいいコンディションのレースだった。前半は自分のリズムに集中し、残り200からギアを切り替える意識で走った。予選よりラストが伸び、5位の選手に0.03秒差で競り勝ち4着。だがPBにあと0.01秒というタイムに悔しさも残る。

8位 佐藤千仁(M2) 1:03.16

このレースは放棄しました。対校戦の重要性を理解し、後輩に示すべき立場であるにもかかわらず、軽率な判断で応援を裏切り、チームに負の影響を与えたこと、大変申し訳ございませんでした。当時の理由は、マイルリレーでの優勝に向けた体力温存でした。練習不足によって、走り切る体力や自信がない状態で本大会に参加したこと、反省しております。挽回の機会は残り少ないですが、今後精一杯、チームの成長に貢献いたします。

### 女子 400m 予選

1組 5着 喜多和奏(2) 1:04.85

緊張もあり、前半200mの入りがまるで800mの入りようで、あまりに遅すぎた。後半そのままペースをあげられずゴール。

2組 4着 加賀谷美結(3) 1:02.31

レース序盤からの他大学の選手のスピードに追いつくことが出来ずにいたがレース後半にスピードに乗った伸びのある走りを展開する。ラス

トの 100m で前の選手に食らいつき 4 着でゴール。

### 女子 400m 決勝

#### 6 位 加賀谷美結(3) 1:02.21

予選と同じくレースの序盤は他大学の選手にリードを許してしまうが、200m 地点から粘りのあるレースを繰り広げる。100m 地点で 1 人を抜かし、さらにゴール 50m 手前でピッチを上げて追い込み、一人を抜かして 6 位でゴール。

### 男子 800m 予選

#### 1 組 1 着 渡邊優典(2) 1:57.35

こちらも 1500m 予選同様、スタートから一度も先頭を譲らずにゴールしました。ただ、前日の 1500m の疲労や、原因不明の頭痛などの体調不良に見舞われて万全な状態ではなかったため、自己管理はきちんとしていきたいと思います。

#### 2 組 2 着 大塚光陽(4) 1:53.69

200m を 3 着で通過。400m 通過後 2 着に位置取りしスピードアップ。

後続突き放し余裕をもって予選通過を決めた。

#### 3 組 1 着 千葉琢巳(6) 1:58.81

先頭が 1 人飛び出す冷静に 2 番手の集団を引っ張って 1 周目を通過。バックストレートで先頭のペースが落ちたタイミングで後続とともに順位を上げ着順で決勝へ進んだ。

### 男子 800m 決勝

#### 1 位 渡邊優典(2) 1:51.71

1 周目を 57 で入るイメージ通りの走りをする事ができた。ラスト 100m で 2 位の選手に危うく差されるところだったが、なんとか逃げ切り、優勝することができた。大会新記録まであと 0.6 秒ほどであり、自己ベストができれば十分狙えるところにあるため、来年は大会新記録樹立 & A 標準突破 (1'50"30) を目指す。

#### 4 位 大塚光陽(4) 1:54.33

5 番手でブレイク。200m 地点から 4 番手でレースを進めるものの 2 周目のバックストレートにおいていかれそのまま 4 着という悔しい結果となった。

#### 5 位 千葉琢巳(6) 1:54.73

スタートは様子を伺い集団最後方に位置取りした。1 周目は 58 秒とスローペースで通過した。バックストレートで先頭が上がったタイミングについていけず、ホームの直線で着順を上げるも 5 着でフィニッシュ。



男子 800m、1500m で 2 冠達成の渡邊(2)

### 女子 800m 予選

#### 1 組 4 着 喜多和奏(2) 2:22.32

決勝に出るため、タイムより順位を意識して全力で出た。途中 400m 地点で自分のいた集団が動いたのを感じ、自分も順位を上げて、PB 更新での決勝進出 (全体 7 位) を決められた。運もあるが、今までで一番いいレース展開だったと思う。

#### 2 組 4 着 加賀谷美結(3) 2:23.39

最初の一周は先頭のペースに確実に着いていき、狙い通りのペースで通過する。最後の 1 週になり、後ろの選手がスピードを上げて追い上げたためピッチを上げてついて行こうと奮闘した体に余計な力を入れてしまい、越し返すことなく 4 着でゴール。

### 女子 800m 決勝

#### 8 位 喜多和奏(2) 2:24.63

600m 地点まではほどほど余裕があり、PB 更新も狙えそうだったが、前日、前々日の疲れが祟り、

最後 200m 見たことがないような酷い垂れ方をして最下位。正直 6 着は狙えたのでとても悔しいが、これを糧として来年リベンジします。

#### 男子 1500m 予選

##### 1 組 1 着 渡邊優典(2) 4:04.83

2'45/km で 1200m を通過してから、ラスト 300m は 45"まで上げた。スタートから一度も先頭を譲らずにゴールしたが、もう一本 4 分一桁で走れるほどの余裕はあったような気がする。

##### 1 組 3 着 日引英舜(2) 4.05.31

スタートをうまく抜け出し集団前方で落ち着いて走った。ラストペースが上がるが落ち着いて対応し、3 着で着順により予選通過。

##### 2 組 3 着 上原佑太(M1) 4:08.87

スタートから先頭に立ち、1 組よりも遅いペースで自分のリズムでレースを進めた。ラスト 1 週のペースアップになんとか乗り遅れず 3 着でゴールし、着順で決勝進出。

#### 男子 1500m 決勝

##### 1 位 渡邊優典(2) 3:59.31

1 周目 71"、2 周目 66"、3 周目 60"、ラスト 300m 41" とビルドアップしていくタフなレースだったが、最後まで脚が止まることなく走りきることができた。全カレ出場 C 資格を獲得したため、全カレでは部記録を狙った積極的なレースをしてきた。

##### 6 位 上原佑太(M1) 4:04.21

3 人とも決勝に残った唯一のチームだったため、事前にレース展開ごとに戦略を練っておいたので、交替で先頭を引っ張り、東北大学でレースを支配する展開にできた。最後のペースアップには出遅れたが、巻き返して 6 位でゴール。

##### 9 位 日引英舜(2) 4.06.83

スタートで先頭を引かされる展開になる。スローペースからラスト 1 周で急激なペースアップに対応できず、9 着でゴール。

#### 女子 1500m 決勝

##### 10 位 江口真央(3) 5:04:95

3 人の 8 位集団で走り続けたが、ラスト 200m で競ることができずにゴール。

##### 11 位 塩見薫(2) 5:09.58

序盤に集団から離れてしまいほぼ単独走だった。後半もあげることができずそのままゴールした。

#### 男子 5000m 決勝

##### 9 位 照内優允(2) 15:37.35

スタートしてすぐに 7 人の 1 位集団が形成され、自分は 8 位集団につく形になった。以降、自分が集団の先頭を引っ張りレースを展開していたが、ラスト 1km 付近で 2 人の選手に抜かれ、先頭から落ちてきた 1 人の選手を抜いてゴールする形になってしまった。粘りきれず自分の力不足を痛感したレースだった。入賞を目標にしていただけに悔しい結果となってしまった。

##### 12 位 長尾修弥(2) 15:52.24

3000m からの集団のペースアップについていけず、そこからは体が動かずペースを落としてしまった。非常に不甲斐ないレースをしてしまった。今回の悔しさをバネに今後のレースで晴らせるよう練習を積んでいきたい。

##### DNS 千葉航太(3)

#### 男子 10000m 決勝

##### 2 位 向田祐翔(4) 31:44.88

東北学院大の選手が飛び出したがそれには着いていかず、東北大主導で 2 位集団を形成した。そのまま 3'10/km ペースで押していき、後方がペースが落ちた所を粘り、そのままゴール。

##### 3 位 千葉航太(3) 32:01.94

東北学院の選手が飛び出したため、東北大学で 2 位集団を作りレースを進めた。5000m まで耐え、後半上げるプランだったがうまく切り替えられず 3 着でゴールした。表彰台に乗れたことは嬉しいが、タイムが物足りない上に 1 位の東北学院の

選手には大きな差をつけられてしまった。練習がうまく積めていただけに非常に悔しい。

### 7位 工藤大介(M2) 32:50.81

3'10/km 前後の集団でレースを進めたが、5000m できつくなり離れてしまった。そこからはペースが上がらず、最後は後ろから来た選手に抜かされてしまい7着でゴールした。粘ることができず悔しいレースとなった。



10000m2位向田(4)(左)と3位千葉(3)(右)

### 男子 110mH 予選

#### 1組3着 西里碧澄(3) 15.15(+1.1)

スタートが決まり、トップで1台目を通過。しかし、途中でハードルにリード足を当て失速をしたため、後続に抜かれて3着でゴール。シーズンインが遅れて練習での完成度を高めることができず、準備不足が如実に出た。

#### 2組6着 中村祐貴(M2) 15.23(+0.7)

スタートから横並びだったが、中盤にハードルに当ててしまい減速。そのまま少し離され5着でゴール。UBを出すも決勝にはいけなかった。

DNS 岡田幹太(4)

### 男子 400mH 予選

#### 1組3着 水澤大地(2) 56.31

前半から攻めた走りが出来た。8レーンで周りの人が見えなかったが自分のペースでレースを進められた。8台目以降はスピードに乗ることが出来ずに3着でゴール。

#### 2組3着 岡田幹太(4) 54.10

7台目までガンガン進んで先頭争い。8台目でリズムを崩すも、気合いで乗り切り3着。

#### 3組2着 阿部竜胆(3) 52.84

天気、気温などコンディションを考慮した際に翌日の決勝よりも予選の方が記録を出すのに適していると考え、予選に調整した。しかし5台目で遠くなってそのまま惰性で走ってしまい、2着でゴール。

### 男子 400mH 決勝

#### 1位 阿部竜胆(3) 51.64

前半突っ込んでそのまま逃げ切るしか優勝と記録は狙えないと思い、積極的なレースを展開した。5台目からの切り替えも上手いき、8台目をスピードに乗って抜ける。最後は後ろから詰められるも逃げ切り優勝。全日本インカレB標準も0.01秒ではあるが切ることができ、満足している。

#### 8位 岡田幹太(4) 54.43

終始、他7人に置いていかれる展開。必死に追うも、気が付けば8位。不甲斐ない結果となった。大会直前の怪我により出場すら怪しい状況だったが、チームの応援に背中を押され、なんとか2本走りきることができた。



400mH 優勝の阿部(3)

### 男子 3000mSC 決勝

#### 3位 杉山大輔(3) 9:35.71

スタートから上位2人が飛び出すことは分かっていたので、落ち着いて入って後半追い上げるプランで臨んだ。予定通りレースを進め、2000mあたりで2位の選手との差が縮まったが、自分もきつくなりそのまま3位でゴール。レース直前のミスで実力を出し切れずに終わり、悔しい結果となった。

#### 7位 小林由輝(4) 9:57.14

スタート後は第2集団に着き、中盤で抜け出して単独5位まで浮上した。2000m手前で4位の選手を抜こうとした際に転倒に巻き込まれてしまい、一度完全に止まってしまった。そこからリズムを立て直すことができずに順位を落としてしまい、7位でゴール。前半の展開が良かっただけに悔しいレースとなってしまった。

#### 9位 野地健太郎(4) 10:08.14

入賞ラインである9分台では最低走ろうと思っていたが、実際は1000m時点で足が止まってしまい、そこからただただペースを落としてしまい、ハードリングがうまくいかず、最後まで切り替えることができなかった。



#### 男子 10000mW 決勝

#### 7位 田中伊織(3) 48:21.47

序盤から集団とは離れて単独7位でレースを進めた。中盤、6位の背中が近付いていたが、練習不足が祟り後半失速し、差を広げられたまま7位でフィニッシュ。タイム・順位ともに昨年より落ちた結果となったが、おおよそ予想通りの実力を発揮することができた。

#### 8位 山中遼平(2) 49:31.54

最低でも入賞を目標に掲げて出場したレースだった。レースが始まる前からとりあえず入賞ラインの選手についていこうと考えていたため最初の1kmくらい前の方の集団についてレースを進めた。しかし2km手前できつくなってしまいそのまま順位を落としてしまった。そこから自信の調子を考え8位に入ることを考えレースを進め順位を守り切ってレースを終えた。正直、練習をいい感じで行っていたためタイムとしては満足できない結果だった。

#### 男子 4×100m リレー予選

#### 1組4着 元木(4)-室田(2)-西尾(4)-藤井(M2) 42.06

朝のウォーミングアップの時間が少し不足してしまい、全員のスピードがイマイチ上がらなかったという印象。バトンパスは予選ということもあり、多少余裕を持たせた。着で通過することができなかったが、タイムで決勝に進めることができた。

#### 男子 4×100m リレー決勝

#### 7位 藤井(M2) -室田(2)-西尾(4)-齋藤晃(4) 42.00

1走を藤井に、4走を齋藤に変更して万全の状態に挑んだ。2走までは順調に進んでいたが、室田と西尾のところでバトンがうまく繋がらず大幅ロスをした。後半追い上げるも差を縮めることができなかった。選手の状態が良かっただけに悔しい結果となった。

#### 女子 4×100m リレー決勝

#### 5位 白鳥(1)-加賀谷(3)-原田(4)-古閑(1) 52.14

一番内側の2レーンからスタート。1走の白鳥は持ち前の走力でスムーズにバトンパス。2走の加賀谷は懸命に他大学の背中を追いかけた。3走の原田は内側から他大学を追いかけ、5位でバトンパス。4走の古閑は軽快なピッチでバトンをゴー

ルまで運んだ。結果、5位でフィニッシュ。1年生が半分を占めるオーダーであったが、バトンパスも上手くいき七大戦に向けて良いスタートがきれた。

#### 男子 4×400m リレー予選

2組2着 菅野(3)-神近(2)-阿部(3)-千葉(6)

3:17.16

2走を予定していた西尾が怪我のため、神近に変更。1走の菅野は前半落ち着いた走りをし、後半上げ、1着で渡す。2走の神近は急遽走ったにも関わらず落ち着いた走りでも4着で渡す。3走の阿部は後半に溜める走りでも福祉大を捉えて1着で渡す。4走の千葉は余力を残しながらも2着でゴール。

#### 男子 4×400m リレー決勝

2位 菅野(3)-阿部(3)-千葉(6)-佐藤(M2)

3:12.32

1走の菅野は、前半を力みのないフォームで駆け抜けたのち、ラスト150m付近で切り替え2着のバトンパス。2走の阿部は、他チームが前半から前に出る中集団の後方で冷静に位置取りし、200m地点からリズムアップ。勢いをつけて2着でバトンパス。3走の千葉は、同着でバトンパスを受けた岩手大学のすぐ後ろに位置取りし、前半を楽に入る。後半で一気にスピードを上げ、後続を大きく引き離し仙台大学との1着争いに加わる。4走の佐藤は、前半で無理なく1着との差を詰めたものの、ラストで追い抜くことができず0.40秒差の2着でゴール。部記録更新とは裏腹に悔しいレースとなった。

#### 女子 4×400m リレー決勝

6位 加賀谷(3)-喜多(2)-建部(1)-原田(4) 4:24.01

3レーンからのスタート。1走加賀谷は他大学の選手に食らいつくも他大学の選手の速さに圧倒され、6位でバトンを繋ぐ。2走喜多は前半に粘りのある走りを見せるも他大学との差を埋めら

れないまま3走建部へ。建部は後半に粘りのある走りを見せ4走の原田にバトンを繋ぐ。原田は悪天候の中でも安定した走りを見せ、応援の音が響く中、6着でゴール。

#### ☆フィールド

#### 男子 走高跳 決勝

8位 嶋崎雄飛(M1) 1m85

大けがからの復帰直後であったが最低限入賞できることができ良かった。

11位 平山朝陽(4) 1m80

練習跳躍では調子が良く感じ、PBを狙える調子だと思ったが、185cmで足を攀ってしまいそのまま戻らず終わってしまった。足が攀りやすい体質のためもっと対策をするべきであった。冬季で練習を十分に積めずシーズンに入ってから急に練習量が増え疲労が溜まってしまったことも原因だと考えられるため、継続的な練習を積み続け次の対抗戦では結果を出してチームに貢献したい。

14位 藤田想(4) 1m80

今回は足の痛みにより満足に練習が積めておらず、不安が残る中での試合だった。

競技は1m75からスタートし、1回目は跳躍が流れて足を引っ掛け、バーを落としてしまったが、2回目は修正して確実にクリアした。

1m80に上がり、1回目は踏切で力が入らずに失敗し、2回目は流れた跳躍になってバーを落とした。後がなくなった3回目は、やや踏切で突っ張りすぎたものの、上手く体が上がってクリアした。

1m85の1回目は跳躍が崩れ、2回目はやや修正したものの高さが足りず、3回目は高さが出たが体の回転が甘く、太ももでバーを引っ掛けてしまった。

足の痛みによる練習不足が原因で技術面に課題があり、助走スピードも抑えていたため、満足な試合はできなかった。おそらく足に負担をかけすぎない跳び方ができれば、足の痛みも引い

ていくと思うので、跳躍フォームの改善を頑張りたい。

### 女子 走高跳 決勝

#### 4位 原田萌々子(4) 1m45

天候が悪い中、1m40からスタートした。1m40は1回でクリアすることができたものの、1m45では1本目に失敗してしまい、2本目での成功となった。1m50は惜しい跳躍もあったものの、跳ぶことができなかった。

1m45を1本で跳ぶことができていたら3位になることができたため、跳べる高さを天候に関わらず1本で決めることが重要だと改めて感じた。しっかりと調子を取り戻して七大戦に臨みたい。

### 男子 棒高跳 決勝

#### 3位 島村惟葵(3) 4m80

昨年同様雨等の影響で少し遅れての試合開始となった。公式練習までで踏切までの感覚があわず跳躍を行えなかったため、4m40から始め手堅く記録を残した。4m60と4m80をともに2本でクリアし、4m90へ挑むも感覚がずれ、跳躍とならなかった。4m80のときは良い感覚であったので、これからB標準に向けて頑張りたい。

#### 5位 吉田悠斗(4) 3m60

公式練習から雨での厳しい状況だったが、PBの高さである3m60を2回目でクリア。3m80は3回挑戦するも跳ぶことができず、競技終了。5位で競技を終えた。

### 男子 走幅跳 決勝

#### 6位 細島慎友(M2) 6m85(-0.2)

1本目 F

1本目だったので、体はかなり緊張していて走りこわばりが有ったが、試合を通して、1本目が一番跳べた感覚があった。

2本目 F

1本目より走りは改善できたと感じる。試合を通して自分が思う踏切板の距離と実際の踏切板の距離の感覚にずれがあった。2本目は少し遠いと感じ、最後に間延びしたため、ファールして記録もできなかった

3本目 6m71(-0.6)

踏切板の感覚のずれにかなり焦っていた。意識として、5歩前からきざむことと踏切板より手前で跳ぶ意識で跳びに行った。なんとか決勝に残れる記録を出せたのは最低限良かった。

4本目 F

感覚としてはそこまで悪くなかったが、足が回らず、途中で落ちてしまった。

5本目 6m85(-0.2)

6本目のための跳躍を行った。踏切時に、ふくらはぎにピリッときたので、踏切に力を出しきれず、また空中動作で足を動かさずに着地でそのまま落ちてしまった。現在の状態では1位を狙うことは厳しいと感じたため、6本目は念のためパスした。

全体を通して、悔しい結果になった。敗因として、自分が東北インカレに身体の状態を合わせられなかったことと踏切板の距離の感覚のズレが大きい。今後の大会でこの反省を活かせるようにしたい。

#### 5位 早藤海音(1) 6m95(-0.6)

今回の大会は、全助走の感覚がつかめず、全体的に動きが崩れてしまった。練習と実戦経験を積み、良い感覚を取り戻していきたい。

#### 10位 坂本泰(4) 6m58 (-0.9)

練習跳躍で足が全然合わず、ぶっつけ本番のような形になってしまった。本番試技になると雨が上がったからか体が動くようになり、1本目はファールとなった。2本目は助走の入りで体が浮いてしまい、踏切板に乗らず踏切となってしまった。3本目で修正を試みたが、調子が上がりきらずまた踏切板にほとんど乗らず踏切ってしまい、10位にて競技終了。アップの工夫と助走の安定性について再考させられる試合となった。

## 女子 走幅跳 決勝

### 9位 古閑詩季(1) 4m53(+2.1)

全体的に助走スピードが上がらず、踏切前に上手くピッチアップが出来ない跳躍だった。2本目で記録が残ったのに、3本目で攻めることができずtop8を逃したことが悔しい。今後は助走の改善を最優先に取り組みたい。

### 11位 末岡由衣(2) 4m34(+1.2)

初めての対抗戦だった。助走がまだ安定していないため、練習のときから足が合わず、手前60cmでとんだり1mファールしたりとかなりひどかった。北大戦までに助走を安定させ、七大戦までに拝み跳び以外を習得することを目標としてこれからも練習を積みたい。

### DNS 須藤桃由(4)

## 男子 三段跳 決勝

### 5位 大谷航平(M1) 14m48(+0.5)

1本目 F

自分より試技順の早い選手が好記録を残していたため気合を入れて挑んだが、追い風に押されてF。

2本目 14m16(+0.7)

1本目のFと他選手の好記録に焦り、とりあえず記録を残すため助走距離を伸ばしての跳躍。結果的に踏切板手前で跳ぶことになったが、まずまずの記録で7位に浮上。

3本目 14m13(0.0)

ベスト8から落ちる可能性が十分にあったため記録を伸ばそうと意気込んだが、緊張と風の変化に惑わされ伸び悩む。

4本目 14m48(+0.5)

ベスト8に残ったことで安心し、緊張もほぐれ、いつも通りの助走と踏切ができた。春先の初戦に続くPB更新で5位に浮上。ただ主観的にはあまり良い感触は無く、記録を見て驚いた。

5本目 14m21(-0.2)

疲れが出た。助走でスピードに乗り切れなかった。

6本目 14m41(+1.4)

この日で一番助走が良く走れた印象。しかし跳躍がスピードに負ける形となり、14m50超えはならず。

順位はもっと上を目指していたため悔しさもあるが、2試合連続PBということで嬉しさもある。また課題も明確になり、まだまだ伸び代を感じられる試合となった。

### 9位 久保田大聖(4) 13m70(-0.1)

1本目：F

助走の流れも良く、ステップは少し潰れたもののジャンプまでバランスを崩すことなくまとめられて良い跳躍となった。着地は14mを超えたが、僅かにファールしてしまった。

2本目：13m68

とりあえず記録を残そうと安全な跳躍をした。

3本目：13m70

エイトラインに乗っていなかったので攻めの跳躍をしようと思ったが、結局板にも載らず、ジャンプでバランスを崩して散々な跳躍だった。全体を通して自分の弱いところが出た試合となった。来月の七大戦では悔いの残らないよう妥協せずに1本1本跳びたいと思う。

### DNS 江尻羚真



## 男子 砲丸投 決勝

### 6位 金岡有途(3) 9m36

一つ上の順位の人と僅差でとても悔しい。体勢が崩れてしまった投擲が最も飛んだので、伸び代はあると思う。そこは良かった。

#### 7位 大泉宥太(2) 7m65

練習通りの投擲ができなかった。自分の実力と向き合って今後の練習に取り組もうと思う。

#### 女子 砲丸投 決勝

#### 4位 平谷めるも(3) 10m69

1投目で安定した記録を投げる事が出来たが、4本目まではグライドと最後の押しがうまくかみ合う感じがなかった。最後の2本では、それまでの投擲を修正して記録を伸ばすことができ、試合全体を通して、6本かけて良い投げに持って行くことが出来た。

#### 9位 五嶋理子(1) 8m83

上半身が開かないように意識して、修正しながら試技を行えた。2、3投目で記録を伸ばせたが、トップ8に残ることができなかった。突き出しのスピードを上げる。

#### 男子 円盤投 決勝

#### 7位 金岡有途(3) 24m38

練習ではベストを大幅に更新できそうな感じだったが、無念の少しだけ更新。フォームがダメダメなのでもっと練習したい。

#### 8位 小田島創太(1) 20m74

初めての大会で、動きが縮こまって、固い投げになってしまった。ファーストターン、セカンドターンともにもっと体重を乗せて投げられるようにする。パワーアップして強くなる。

#### 9位 大泉宥太(2) 18m69

雨天であることを加味しても不甲斐ない結果に終わった。技術的に改善の余地があるので、研鑽に努めたい。

#### 女子 円盤投 決勝

#### 5位 五嶋理子(1) 31m15

感覚と実際の動きとの差を埋められなかった。1投目を立ち投げにしたのは良かったが、2投目以降ではターンスタートの乗り込みが半端だった。そのため、記録を大きく伸ばすことができなかった。軸を保ったままターンができるようになる。

#### 男子 ハンマー投 決勝

#### 7位 金岡有途(3) 19m75

得点稼ぎに出場したは良いものの、納得のいく投擲が一投も無かった。入賞できたので良かったが、もう少ししっかり投げられるようにしたい。

#### 女子 ハンマー投 決勝

#### 1位 平谷めるも(3) 42m60

記録に満足はしていないが、雨でも崩れず投げることができ、自信がついた。今後、パワーとスピードをつけ、記録を伸ばしたい。

#### 男子 やり投 決勝

#### 5位 増田併介(2) 58.00m

上半身が良いときと下半身が良いときがあったので、合わせたい。

#### 7位 川内蒼馬(4)54m32

1投目 49m87

槍の尻尾が地面を擦った。

2投目 54m32

軌道はよかったが槍の引きが甘く力を伝える時間が短い。

3投目 50m14

投げる直前に槍が頭から離れた。

4投目 51m98

助走速度を上げたが3投目の修正ができておらず力のない投げ。

5投目 53m85

体の開きが早い。

6投目 52m21

頭から槍が離れ、開きも早い。

#### 10位 石井誠太郎(1) 44m40

肩を負傷していたためしっかり振り切ることができなかった。投げる前までの流れは非常に良かったので、上下の迎角を押さええてあとは振り切れれば 60m は投げられると思う。来年は上位入賞を狙っていきたい。

### 男子十種競技

#### 1位 根本大輝(M1) 6768点

1日目 100m で自己ベストの 11"24 で 808 点を獲得。3、4 種目目の砲丸投と走高跳ではそれぞれセカンドベストをマークし種目別トップ。1日目を 3439 点。2位で折り返した。

2日目 8 種目目の棒高跳びでは自己ベストの 4m30cm、9 種目目の槍投げ自己ベストの 59m29 で 727 点を記録し総合 6768 点で優勝。

#### 4位 小出寿啓(5) 6292点

1日目

雨で気温も低い中、第1種目の100mから11.54の自己ベストを出すことができた。第2種目の走幅跳では助走のリズムが崩れてしまい記録を伸ばせず。その後の砲丸投げ・走高跳・400mもいまひとつの結果を出してしまったものの、1日目としてはベストの3305点で終了。

2日目

1日目とは異なり陽が出て気温も上がり良いコンディションとなった。そのおかげで第6種目の110mHと第7種目の円盤投げと第9種目のやり投げはベスト更新。しかし、棒高跳は実力不足で今回唯一の400点台を出してしまう。結果、2日目としてはベストの2978点で終了。合計点としては大幅ベスト更新ではあるものの、目標としていた6400点と表彰台には程遠く、実力不足を痛感する大会であった。

#### 6位 鍵山弘樹(1) 5020点

6000点出したいと思いながらも、絶対に怪我せず終わることを決意して出場した。

1日目、100m、幅跳び、砲丸投、高跳びと可もなく不可もなく終える。しかし疲労が溜まっており400mはスピードが上がらずそのまま終わってしまった。

2日目 混成競技をやってきた中で1番体がバキバキだった。ハードルは本番でいい走りができたが、その円盤でNMを叩き出したりした。最後までやりきって5000点は超えることはできなかった。楽しかった。だが争いに加われない虚しさも覚えた



## ◎第 85 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 兼 第 37 回北海

### 道大学対東北大学女子陸上競技定期戦

#### 岩見沢東山公園陸上競技場(北海道)

第85回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第37回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦、通称「北大戦」が、北海道岩見沢で開催されました。結果は、男子総合2位(通算49勝32敗1分)、女子総合2位(通算6勝23敗)でした。猛暑の中でしたが、多数の部員がPBやUB、SBを更新しました。対校得点の結果と対校種目に出場した選手の観戦記を紹介します。

#### 結果一覧

男子総合	88.5	2位	女子総合	23	2位
男子トラック	52	2位	女子トラック	13	2位
男子フィールド	36.5	2位	女子フィールド	10	2位

#### ●選手報告

##### ☆トラック

#### 男子 100m 決勝

##### 2位 白田蓮希(2) 11.27(+0.1)

怪我から復帰し、今シーズン初めてのレースだった。スタートから加速までは良く1位だったが、後半で走りがバラバラになり2着でゴール。

##### 3位 平井嘉人 11.29(+0.1)

スタート。一次加速であまり進まない。困った。いつの間にかゴール。

##### 4位 小南慧馬(2) 11.32(+0.1)

専門種目は跳躍であるのでスタブロを使った練習を最近ほぼしていなかった。そのためスタートの反応に遅れ半歩他の人に遅れをとった。中盤前傾から体を起こす局面もやはり100mの練習不足から接続がうまくいかずここでも少し離された。逆に後半は接地の仕方を変えトップスピードが向上したこともあり速度低下は少なく他選手を詰めることができた。全体としてまだまだトップスピードが足りていないと感じた。100m用の技術を高めることも重要だが専門の跳躍に繋がら

れるように絶対的なスピードを向上させる練習をしていきたい

#### 女子 100m 決勝

##### 3位 加賀谷美結(3) 13.52(+1.0)

5年ぶりの公式戦での100m。スタートから出遅れるも上半身をうまく使って加速していく。50m以降から徐々に後ろとの差を広げ、前に追いつこうとするもあと少し足りず3位でゴール。いつもと異なり、プレッシャーを感じずに楽しんで走ることができた。

##### 5位 喜多和奏(2) 14.04(+1.0)

思うような足の動きができず、終始北大をはじめとした周りに離されっぱなしだった。

##### 6位 末岡由衣(2) 14.86(+1.0)

スタートから結構出遅れていた。ストライドが短く、足が後ろに流れる。腸腰筋をうまく使って足を前に出し、お腹に力を込めて反り腰にならないようにこれからドリルを積みたい。ストライドを大きくするために、ミニハードルをうまく活用したい。

### 男子 200m 決勝

#### 1位 菅野涼太(3) 21.88(+1.3)

前半の100mはカーブを利用し楽に進めた。カーブ明けにトップにたてたので、さらにギアを上げて走った。トップを維持し、1着でゴールした。

#### 3位 神近凜太郎(2) 22.73(+1.3)

前2人とのスピードの差を感じた。後半はある程度伸ばすことができた。

#### 4位 鈴木汐優(2) 23.74(+1.5)

スタートから100mまでは、なるべくストライド意識で抑えめに行こうと思っていたが、意識しすぎてゆっくりすぎるペースになってしまった。後半でもギアを変えることができず、スピードが上がりきらなかった。直線で1人抜かすも、結果4着でゴール。

### 男子 400m 決勝

#### 1位 佐藤千仁(M2) 48.56

前半は、後半のビルドアップを意識した上で、最大限のスピードを出し、前に出る。200mを23.3で通過。その後は動きを大きくしつつリズムアップし、1着でゴール。

#### 5位 大村将伸(3) 51.43

前半は前の北大の選手についていったが後半粘れず5位でゴール。

#### 6位 神近凜太郎(2) 52.63

バックストレートが向かい風で、前半からタイムの割に力を使い過ぎてしまったため、きついレースになってしまった。

### 女子 400m 決勝

#### 1位 加賀谷美結(3) 1:02.23

スタートからスピードに乗るまでに序盤から多くの時間と力を使ってしまう。200m地点で他の選手に首位を許してしまうも、ホームストレートで互いに譲らぬ接戦を展開するまで持ち込

む。ゴール直前でピッチを上げ、相手の選手をかわして1位でフィニッシュ。

#### 4位 喜多和奏(2) 1:07.14

100mから1時間も間がなかったこともあり、ハムの疲れが取れず、疲労感のまま走る結果になってしまった。自己ワースト。

### 男子 800m 決勝

#### 2位 錦戸昂雅(2) 1:59.00

最初の1周は2番手で通過。500m地点で先頭に出てスパートをかけるも強風で足が止まった。ラストの直線で交わされ、2着でゴール。

#### 3位 富田綾人(M1) 2:01.59

風と疲労のため3番手からのスタート。バックストレートで一人を抜かすも一人に抜かされてしまい、そのまま離されて3位でゴール。

#### 5位 大崎海斗(1) 2:06.63

他選手との走力差から消極的なレースになった。特に残り一周で前方と離れてから粘ることができなかった。課題は見つかったので、次のレースに活かしたい。

### 女子 800m 決勝

#### 3位 加賀谷美結(3) 2:29.41

前に走った3種目で疲労が残っている中、スタートから安定した加速を見せる。400m地点までは2位で安定したタイムでの通過を見せるが、その後は疲労が出てしまい200m地点で他の選手に追い越され、離されてしまう。後ろの選手には負けまいと意地を見せ、得意のピッチの安定した走りで3位でゴール。

#### 4位 喜多和奏(2) 2:29.95

疲労からして周りについていける気はしなかったのだが、このままじゃだめだと思い、後先考えず無理やり勝負を仕掛けたが、100mごとのペースに波があるレースになってしまった。

### 男子 1500m 決勝

#### 2着 上原佑太(M1) 3:59.10

スタートから3番手でレースを進めたが、700m付近から先頭と差が開き始めた。800mを過ぎたあたりから前に出て先頭を追い、ラスト1周になるタイミングで追いつくことができた。

1200mで仕掛けて先頭に出たが余力がなく、再び抜かれて2位でゴール。

#### 4位 相澤啓太(M1) 4:09.76

北大の宮瀬さんが前に出たので落ち着いて後方に位置を取ったが、ペースが早かったため、大野君の後ろで先頭の3人と距離を取り、レースを進めた。800mを過ぎて余裕があったので大野君の前に出て、先頭集団から溢れた林さんを追いかけたが、追いつけず4位でフィニッシュ。

#### DNS 渡邊優典(2)

#### 女子 3000m 決勝

#### 3位 江口真央(3) 10:42.49

終始3位集団を牽引し、最後の1周で後ろとの差を少しつけてゴールした。

#### 5位 木村瑞葉(4) 11:00.86

風は強かったが走りやすい気候だった。終盤まで後方でレースを進めた。ラストは粘ってゴールした。

#### 6位 塩見薫(2) 11:00.90

1000m以降集団から離れ単独で走る。最後に抜かされそのままゴール。

#### 男子 5000m 決勝

#### 1位 向田祐翔(4) 15:05.38

スタート直後東北大選手3人で先頭集団を形成し、2000m通過後前に出て3'00/km前後で刻み続け、そのまま先頭のままゴール。14分台を狙っていたため悔しい結果となった。

#### 4位 松本修哉(2) 15:28.19

3000mまでは先頭につくことができ、いいペースで刻むことができた。しかし4000m通過でかなりタイムを落としてしまい、ラスト一周で2人に抜かれてしまった。練習状況を考えると妥

当なタイムではあったが、悔しさが残るレースだった。

#### 5着 杉山大輔(3) 15:33.73

風が強く前に出る選手がいなかったため、スタートから前に出て3'00/kmでレースを進めた。2000m付近できつくなり、そのまま順位を落とし5着でゴール。

#### 男子 110mH 決勝

#### 2位 西里碧澄(3) 15.27(-1.6)

一回目のレースの後、4継を1レース挟んで再び決勝に臨んだ。実質2回試合を行ったので一回目のときに比べて体がよく動いた。スタートの調子が悪く前半は先行される展開となったが、後半追い上げて2着でフィニッシュ。向かい風、曇りのコンディションの中まざまざの内容であった。

#### 4位 中村祐貴(M2) 17.18(-1.6)

機械の不具合により再レースとなった。疲労が溜まっており、レース直前で足をつってしまい、レース放棄となってしまった。競れる相手がいただけに悔しい結果となってしまった。

#### 男子 400mH 決勝

#### 1位 阿部竜胆(3) 53.64

前半力を使いすぎ、後半に持たず。惰性で走ってしまい東北インカレより2秒遅れでゴール。

#### 4位 水澤大地(2) 57.48

強風が吹く中で走る前から気持ちで負けていた。前半は攻めた走りでもリードを稼いだが後半追いつかれて4着でゴール。

#### 5位 中村祐貴(M2) 59.26

その日4種目目ということで、かなり疲労が溜まっていた。前半は抑え気味で、中盤以降の切り替えでスピードに乗れたが、疲労から8台目で足を攣ってしまい、出し切ることができなかった。その中でもUBを出せたのは良かった。

#### 男子 3000mSC 決勝

#### 2位 小林由輝(4) 9:52.95

1000m3'13 と抑え目のペースで入り、2位についた。中盤飛び出してペースを上げ、1位に浮上するも北大1人に後ろにつかれ、ラスト200mでスパートに対応できず、2位でフィニッシュ。

#### 6位 千葉夕海平(2) 10:28.84

イーブンペースで行こうと思っていたため最初から集団にはつかなかったが1000m過ぎから足がきつくなってしまうとどんどんペースが落ちて言ってしまうそのままゴールした。疲労が抜けきれないまま試合に臨んでしまったので、次からは調整をもっと気をつけたいと思う

#### 4位 鈴木拓真(2) 10:05.09

初めての対抗戦で緊張する中、スタート直後は先頭集団につけていたものの途中から減速し離れてしまった。PBではあるのだが目標だった9分台に届かず悔しい結果となった。特に1キロ地点から2キロ地点にかけていかにフォームを維持しての走れるかが課題となった。

#### 男子 5000mW 決勝

#### DQ 山中遼平(2)

一緒に走る選手の実力が分からなかったのととりあえずは後ろについてレースをしようと考えてレースに臨んだ。しかし思いのほかペースに余裕があったので序盤から差をつけて逃げ切ろうという風に考えを変えた。だが対抗戦ということのを忘れベストを狙ってレースをしてしまったため冷静さを欠き残り400mで失格となってしまった。七大戦ではこのようなことがないように歩形をしっかり見直して入賞を狙いたい。

#### 男子 4×100m リレー決勝

#### 1位 西里(3)-白田(2)-菅野(3)-平井(M2) 42.93

東北インカレの2週間後であることや選手の怪我などにより十分にバトン練習ができなかった。そのため各バトンパスでミスが目立ったが、個人の走りは良く、なんとか北大に勝った。

#### 女子 4×100m リレー決勝

#### 2位 末岡(2)-加賀谷(3)-平谷(3)-喜多(2) 57.61

メンバーを変更してのスタート。1走末岡はスタートから勢いよく加速し、スピードを保ったまま2走加賀谷へ。バトンが少し詰まり気味となったが前を走る北大の背中を追って加速し、そのまま2位を保ち平谷にバトンパス。当日にメンバーを変更したためバトンに不安があったが安全に繋ぎ平谷が北大の背中を追いかける。ピッチの安定した走りで4走の喜多へ。バトンパスがうまくいかず、一度止まってしまったが再加速して走り出す。ストライドを大きく使った走りで北大を追いかけるもその背中は遠く、そのまま大きく差の開いた2位でゴール。

#### 男子 4×400m リレー決勝

#### 1位 菅野(3)-神近(2)-大村(3)-阿部(3) 3.22.94

1走の涼太は落ち着いた走りで北大とほぼ同着で2走に渡す。2走の神近は北大に着いていき2着で渡す。3走の大村は前半北大の差を詰めるが、2着出渡す。4走の阿部は200地点で北大に追いつき、カーブで抜かし1着でゴール。大雨で寒い、厳しいコンディションだったが走り抜いた。

#### ☆フィールド

#### 男子 走高跳 決勝

#### 2位 大泉宥太(2) 1m75

個人的に満足のいかない結果であった。投擲2種目12投の疲労の中で、多少なりとも踏切位置の調整ができたのは成長ととれると思う。

#### 男子 棒高跳 決勝

#### 1位 島村惟葵(3) 4m70

ポールがないことに加え、技術練習として中助走で臨んだ。結果としては良いものではなかったが、普段の練習で意識していることを試合で

も再現できたので、これからの練習と試合で活かしていきたい。

### 3位 倉部彰土(3) 3m40

あまり練習を積めていない中だったが、うまく自己記録タイでまとめることができた。

#### 男子 走幅跳 決勝

#### 1位 小南慧馬(2) 6m47(+1.2)

1本目 F アップが十分ではなくあまり体が動かなかった。

2本目 6m33 ふくらはぎに痛みを感じつつ足を合わせ最低限の記録を残しに行った。

3本目 6m47 100m を走ってすぐに跳んだため体が温まり踏切直前で重心を下げすぎず跳ぶことができた。

4本目 向かい風が止まず足が合わなかった。

5本目 足が再び痛みだし踏切が潰れてしまった。

6本目 やはり踏切で潰れてしまった。優勝は決まっていたためパスでもよかったかもしれない。全体として試合の移動に余裕がなく体調やコンディションは良好ではなかったがその中で最低限記録を残せてよかった。今後は体調や試合状況に合わせて試技の組み立てを行うことも考えていきたい。

#### 4位 常陸悠成(3) 5m84(-2.9)

1本目 F

ファール。踏切3歩前までは良かったが、踏切準備に入るのが早かった。

2本目 F

ファール。一本目の追い風に対して2本目はかなりの向かい風となった。助走を合わせるために無理にストライドを広げることとなりスピードが出なかった上ファールしてしまった。

3本目 5m84(-2.9)

確実に記録を残すため50cm下げて助走をスタート。記録を残すことはできたが、跳躍としては無理なストライドでの助走や踏切前の間延びによりうまくいかなかった。

4本目 F

ファール。1本目に比べスタート位置がかなり後ろになっていたため、気づかぬうちにストライドを広げすぎた助走になっていた。そのため、踏切が潰れ気味になった上、2cmほどファールしてしまった。

5本目 4m38(-1.3)

風が向かい風で安定してきたことや、4本目まででストライドを広げすぎていることなどからスタート位置をかなり前に戻した。結果的に全く足が合わず、走り抜けてしまった。

6本目 F

5本目同様うまく助走が合わせられなかった。今回の大会では前回の大会から助走を2歩伸ばしており、記録を狙うと共に助走の試しをする意図で挑んだが、当日の風が強かったことと新たな助走がまだ練習不足で安定感にかけける状態であったことからファールが多く良い記録を出すことができなかった。

#### DNS 大場康平(3)

#### 女子 走幅跳 決勝

#### 2位 末岡由衣(2) 4m24(+1.7)

全然踏切もできていないし、助走の仕方も変だが、東北インカレの反省であった足合わせは今回は改善できた。

#### 男子 三段跳 決勝

#### 1位 久保田大聖(4) 13m95(+3.3)

1本目：13m70

午前の種目で足に疲労があったのでゆったり助走で跳んだ。スピードが遅かった分、一步一步ハマった動きが出来て意外と距離が出た。

2本目：F

1本目から少しスピードを上げたがファール。

3本目：13m30

ホップが低くなり、それによりステップで足が着くのが早くなり、跳ねすぎてバランスを崩した。

4本目：13m41

特にいいところも悪いところもない無難な跳躍だった。

5本目:13m52

4本目と同じような感じになった。

ジャンプでスピードが落ちているように感じたので6本目でそれを改善しようと考えた。

6本目:13m95

追い風と手拍子をもらって気持ちよく跳べた。

ステップ、ジャンプとスピードを落とさないように前に抜けるように跳べたことが記録に繋がった。

**5位 根本陽大(2) 12m12 (+2.7)**

1本目 11m49 (+1.6)

短めの助走にしてスピードを落とす分ステップが潰れないように意識したが、あまり効果は見られなかった。

2本目 11m52 (+1.6)

1本目と同じ3本目 11m99 (+1.6)

全助走にして記録を目指すことにした。結果記録は伸ばせたが12m台にはのせたかった。

4本目 12m12 (+2.7)

全6本のうち1番感覚が良かった。ステップで上手く地面から反発をもらえたように感じたが、風を考えるともっと記録を伸ばしたかった。5本目 11m95 (+2.8)

4本目と同じようなイメージを意識したが、上手くいかず記録が伸びなかった。

6本目 11m61 (+1.2)

5本跳んだ疲労もあって、ジャンプの際にバランスを崩してしまい記録が伸びなかった。全跳躍追い風だったにも関わらず不甲斐ない結果となってしまったため、何をすべきか考えながら練習を重ねていきたい。

**6位 小南慧馬(2) 11m94(+1.1)**

1本目、足が痛く、練習も全くしていなかったのので中助走で合わせて跳んだ。

2, 3本目はパス。4本目は1本目と同じだが少しステップのはいりがよかった。5本目はパスし、6本目 少し力をいれて跳んだ全体として足

の痛みと練習不足の影響でしっかりと助走をして踏切ることができなかった。対抗戦に出ているながら申し訳なく感じる。三段跳は今後出場するか分からないが、練習せずとも13mは超えていけるような身体能力を身につけられるように練習していきたい。

### 男子 砲丸投 決勝

**2位 金岡有途(3) 9m14**

結果も手応えもイマイチだった。しかし、枠埋め、得点稼ぎという自分の仕事は果たせたので良かった。もっと精進していきたい。

**3位 倉部彰士(3) 8m49**

6投目でグライドを修正できたが、もう少し記録を伸ばせたなと感じた。

**4位 大泉宥太(2) 7m67**

PBが更新できたのは良かった。自分の課題と向き合って練習していきたい。

### 女子 砲丸投 決勝

**2位 平谷めるも(3) 10m41**

グライドがはまって、良い記録が出た。1本目から好記録を出せるようにしたい

**5位 末岡由衣(2) 4m79**

1投目、投げ方を忘れ、ソフトボールを投げるみたいなフォームで投げてしまい、肩を痛めた。2投目からはちゃんと押すことを意識した。今後は腰を上手く使って身体全体で投げられるようにしたい。

### 男子 円盤投 決勝

**3位 倉部彰士(3) 24m24**

投げ急ぎを修正できず、練習通りの記録を出すことができなかった。

**4位 富家彬就(4) 22m97**

円盤の練習を始めて1ヶ月目の初戦となった。ターンもできない状況だが下半身とうまく連動できていて、現時点でやりたいことはしっかりできたと思う。

#### 5位 大泉宥太(2) 20m86

目標としていた20mは達成できた。成長を実感できた試合だった。

#### 男子 ハンマー投 決勝

#### 2位 富家彬就(4) 37m44

PBを更新できただけでなく、安定して36m以上の投擲ができたので、冬季練習の成果が出ているようで素直に嬉しかった。七大戦までに4ターンを習得し40mを超えたい。

#### 4位 金岡有途(3) 24m84

自己ベストを更新することができた。スピードをつけた回転を意識することができたので良かったと思う。もっと安定した投擲をできるようにしたい。

#### 男子 やり投 決勝

#### 2位 増田併介(2) 52m62

上半身で角度をつけていたので体全体で角度をつけるようにしたい。

#### 3位 石井誠太郎(1) 46m10

肩がまだ治ってないが、内容としては悪くなかった。次戦ではベスト更新を狙っていきたい。

#### 4位 小武右京(3) 45m94

1投目がベストとなった。目標は48mとしていたが、2投目以降更新することは出来なかった。少し横風が吹いていたため風に抵抗しないよう注意した。投げの角度は悪くなかったため、初速をあげる必要がある。

#### 女子 やり投 決勝

#### 1位 平谷めるも(3) 28m99

全体的に全く飛ばなかった。1本だけ飛んだ投擲があったので、それが安定して出せるようにしたい。

#### 5位 末岡由衣(2) 14m90

助走なしでその場から投げた。やりの真ん中くらいで落ちてファールが多く、投げる時に腰をいれることもできなかった。今回の北大戦は幅跳びと砲丸を同時進行でその途中に100m走、やり投げの途中にリレーと5種目全てかぶっており、ひとつひとつの種目に対してうまく全力を出しきれなかったことと、練習量が不十分であったことが全体の反省。

## ◎全国七大学対校陸上競技大会に向けた抱負

全国七大学対校陸上競技大会が7月27日、7月28日に開催されます。主将、女子主将、各PCからの抱負です。応援の程よろしく願いいたします。

### 主将 西尾陸大(4)

まず、先日の東北インカレにつきまして報告です。正選手決定後PCとのミーティングするなかで男子157点・女子47点を目標に本大会に挑みました。結果、男子は132点で1位と49点差の総合2位。女子は48点で総合5位となりました。女子はルーキーの白鳥を筆頭に健闘し、目標通りの点数を達成しました。男子は日本インカレの切符を得た選手や自己ベストを更新した選手も多く、春先から上ってきた調子をここ一番で発揮してくれたように思います。ただ、私含め『決勝』で結果を残せないという詰めの甘さが全体に目立ち、目標点数から20点遠のきました。悔しい結果となりました。

見立て通りに行かなかった悔いは強く残るものの、東北インカレを通しチーム全体の課題、各パートの課題が浮き彫りとなり、次取り組むべきことが明確になりました。また、ハイパフォーマンスを繰り出した選手が多いことから、冬場の努力が間違っていなかったこと、チームが持つすさまじい勢いも確認することが出来ました。その点に限っては七大戦に向けての弾みになったことと思います。

さて、最重要試合となる七大戦が7月末に迫っています。七大戦でもう一段階パフォーマンスを上げるため、選手一同頑張っています。インカレで奮闘した選手だけでなくインカレをスタンドで見ている選手も、次は自分の番だと練習へより一層打ち込んでいます。全パート、その熱気は見るだけでも伝わってきます。主将やPCの仕事は、そんな選手たちが遺憾なく力を発揮し、チームの力にするべく、自身のやり方で彼らを鼓舞したり、チームの共通認識を増やしていくことで一体感をもたらしたりすることだと自負しています。役職はこの七大戦をもちまして次世代に交代となるので、それが最後の大事な仕事です。PC達は自身の練習だけでなく、そのような形でチームを引っ張っており、感謝とともに非常に頼もしく思います。

私達は今期「次世代からも強いチームとなるための土台を作る」という側面を忘れず部活動に励んできました。その甲斐あってか、全パートで練習面・生活面の基準や意識がどんどん高まり、結果を出せる雰囲気や気運がどんどん高まってきていると感じます。

「2024年から流れ変わった」とみなさんに言わせるべく冬から必死こいて準備してきました。まだやるべきことは山積みで、未完成なチームではありますが、来る七大戦にて是非その努力の末を見届けてほしいと存じます。温かいご声援およびご支援の程、よろしく願いします。

### 女子主将 原田萌々子(4)

女子主将を務めております、原田萌々子です。OB・OGの皆様、いつも多大なるご支援、そして応援していただきありがとうございます。

いよいよ七大戦まで残り僅かとなりました。昨年度の七大戦では女子総合3位という結果で、得点を獲得する選手の偏りや、選手枠を埋められなかったという課題が残りました。そこで女子パートではこの1年間、「去年の女子パートを超えること」「常勝校になるための土台を作ること」を目標とし、日々活動して参りました。その結果、今年の七大戦では全種目の選手枠を埋めることができ、調子の良い選手も多くいることから昨年よりも幅広い種目で得点・入賞できると自信を持って言えるまでになりました。

チームの集大成である七大戦では昨年度の女子パートの結果を超えることはもちろん、応援やサポートなどチーム全体でも最高のパフォーマンスができるよう、一丸となって頑張ります。そして、数多くの先輩方から受け継いできた東北大学陸上競技部を最高の形で次の世代に引き継いでいきたいと思っております。

最後まで全員で戦い抜き、最高の七大戦にできるよう残りの期間も全力で頑張ります。また、非常に見応えある戦いになると思いますので、応援のほどよろしく願いいたします！

### **短距離 PC 阿部竜胆(3)**

短距離 PC の阿部竜胆です。今年の短距離パートは得点を全く取れず惨敗しました。そこから1年間練習を積み、大きく成長した部員も多く居ます。パートとして強くなったところをお見せ出来るように豊橋で精一杯頑張ります。応援よろしく願いいたします。

### **ハードル PC 西里碧澄(3)**

ハードル PC の西里です。今年のハードルパートは1年生が多く加入し、選手層が厚くなりました。正選手争いの中で互いに刺激しあい、各個人が実力を大きく伸ばしてきています。七大戦ではパート一丸となって表彰台を独占し、チームに貢献できるように頑張ります。ぜひ応援の程よろしく願いいたします。

### **中距離 PC 錦戸昂雅(2)**

中距離 PC を務めております。錦戸昂雅です。今年度は昨年度と比べてもパート全体のレベルが上がってきており、普段の練習から質の高い練習ができていると感じています。その結果、東北 IC でも昨年の結果を上回る結果を残すことができ、いい流れができていると思います。今年は昨年に七大戦を経験した選手が多く残りましたが、他大のレベルも上がってきており、ハイレベルな七大戦になると思います。その中でも、東北 IC に続いて昨年の結果を上回り、1点でも多くの点を獲得してチームに貢献できるように頑張りますので応援のほどよろしく願い致します。

### **長距離 PC 杉山大輔(3)**

長距離 PC の杉山です。長距離パートは先日行われました東北インカレにおいて、2種目で表彰台にのり、多くの出場選手が入賞するなど良い流れで七大戦を迎えることができました。昨年の七大戦は、長距離種目の入賞者は1人のみと他大学とのレベルの差を感じる試合となりました。しかし、今年はシーズン中の怪我や体調不良による離脱者がほとんどおらず、順調に練習を積み、他大学と戦える実

力をつけることができました。七大戦では1点でも多く点数を取れるようパート全員で戦いますので、応援のほどよろしく願いいたします。

### 跳躍 PC 島村惟葵(3)

跳躍 PC の島村です。昨年の七大戦では接戦の末得点できないという状況が多く、苦い思いをしました。今年も得点ラインでは厳しい勝負となることが想定されます。しかし、みな厳しい冬季を乗り越え、シーズンに入ってから十分な練習を積んでいます。東北インカレでは思うような結果を残せなかった選手も徐々に調子をあげてきており、七大戦ではより良いパフォーマンスをし、確実に得点できると考えられます。そしてより多く得点できるよう、またチーム全体を盛り上げられるようパート一丸となって頑張りますので、応援のほどよろしく願いいたします。

### 投擲 PC 平谷めるも(3)

投擲 PC を務めております、平谷めるもです。投擲パートは、七大戦での大量得点を目標に掲げて練習をして参りました。具体的な設定としましては、「メイン種目として練習をしている人がいる2種目と、女子の2種目で表彰台」と「その他の種目で入賞」を掲げております。投擲パートの部員は、少ない人数ながらも、去年の冬から途切れることなく練習を積んで参りました。また、新入生の加入もあり、各々が日々の練習から切磋琢磨し合い、とても良い流れができています。七大戦では全員がベストを尽くし、得点を重ね、部に貢献できるよう戦い抜きます。応援よろしく願いいたします。

## ◎自己ベスト更新者一覧(4/21~6/16)

### 男子 100m

菅野涼太(3)10.96(+1.1)宮城県春季(4/21)

齋藤晃汰(4)11.00(+1.4)東北インカレ(6/1)

鈴木汐優(2)11.91(+0.5)北大戦(6/16)

### 男子 200m

西尾陸大(4)21.66(+1.0)東北インカレ(6/1)

室田竜磨(2)21.97(+0.8)東北インカレ(6/1)

菅野涼太(3)21.88(+1.3)北大戦(6/16)

鈴木汐優(2)23.74(+1.5)北大戦(6/16)

### 男子 400m

神近凜太郎(2)51.96 東北インカレ(5/31)

### 男子 800m

渡邊優典(2)1:50.92 部歴代 1 位宮城県春季(4/21)

### 男子 5000m

小林由輝(4)15:38.40 仙台大記録会(4/21)

清水川一吹(2)16:28.35 仙台大記録会(4/21)

小川綜太(2)16:35.60 仙台大記録会(4/21)

山中遼平(2)16:39.22 仙台大記録会(4/21)

菅原大地(3)17:10.86 花巻トラック(5/4)

照内優允(2)15:38.48 花巻トラック(5/4)

長尾修弥(2)15:39.46 花巻トラック(5/4)

江口実(5)15:54.50 花巻トラック(5/4)

向田祐翔(4)15:05.38 北大戦(6/16)

山内滉介(1)16:06.73 北大戦(6/16)

竹田佳人(2)16:13.80 北大戦(6/16)

### 男子 400mH

阿部竜胆(3)51.64 東北インカレ(6/2)

全日本インカレ B 標準突破

### 男子 3000SC

野地健太郎(4)9:54.67 花巻トラック(5/3)

千葉夕海平(2)10:05.61 花巻トラック(5/3)

杉山大輔(3)9:35.71 東北インカレ(5/31)

小林由輝(4)9:52.95 北大戦(6/16)

鈴木拓真(2)10:05.09 北大戦(6/16)

#### 男子 10000mW

山中遼平(2)49:31.54 東北インカレ(6/1)

#### 男子走幅跳

小南慧馬(2)6m76(+0.6)仙台大(6/8)

常陸悠成(3)6m44(+0.6) 仙台大(6/8)

#### 男子三段跳

大谷航平(M1)14m48(+0.5)東北インカレ(5/31)

#### 男子棒高跳

吉田悠人(4)3m50 仙台市競技会 (4/28)

島村惟葵(3)4m90 岩手県春季(5/12)

#### 男子 4×400mR

菅野(3)-阿部(3)-千葉(6)-佐藤(M2) 3:12.32

部歴代 1 位東北インカレ(6/2)

#### 男子十種競技

根本大輝(M1)6768 点東北インカレ(6/2)

#### 女子 800m

喜多和奏(2)2:22.32 東北インカレ(5/31)

#### 女子 1500m

塩見薫(2)5:09.58 東北インカレ(5/31)

#### 女子走幅跳

末岡由衣(2)4m34(+1.2)東北インカレ(5/31)

## ◎今後の予定

- ・ 7月 27 日(土)~7 月 28 日(日) 全国七大学対校陸上競技大会(愛知県 豊橋市陸上競技場)
- ・ 8 月 12 日(月)~8 月 14 日(水) 第 46 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(石川県 石川県西部緑地公園補助陸上競技場)

## ◎編集後記

今シーズン初の対校戦の東北インカレ、七大会の前哨戦となる北大戦が終わり、七大会まであとわずかとなりました。東北インカレ、北大戦と戦い抜き、七大会に向けてチームの士気が高まっています。チーム目標の達成に向け、選手、マネージャー、スタッフが一丸となってより一層努力して参ります。応援よろしくお願いたします。

文責 OBOG 通信担当 大村将伸  
編集補助 竹田康人、須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会  
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1  
東北大学評定河原グラウンド内  
hukumu\_tohoku\_ob2sin@yahoo.co.jp